

## 第2回地域づくり委員会



3月6日(月)広島市において、55名出席のもと、2022年度第2回地域づくり委員会を開催しました。

当日は、国土交通省 中国地方整備局 港湾空港部長 正岡孝氏によるご講演の後、当委員会の活動実施状況報告および2023年度の事業計画案を審議し、原案どおり承認されました。ここでは、講演の概要を紹介します。

### 【講演要旨】

#### 「最近の港湾・空港行政の動向について」

国土交通省  
中国地方整備局  
港湾空港部長  
正岡 孝氏



港湾空港部では、令和3年2月に「中国地域港湾の中長期構想」を策定し、基本理念として「世界に誇る多種多様な資源・産業等の個性を礎に国内外の交流・交易を促し、西日本経済を支え世界と地域を繋ぐ中国地域港湾」を掲げて事業を行っている。

令和4年度の港湾空港関係の実行予算は238億円。広島港出島地区において、広島港国際海上コンテナターミナル整備事業が新規採択された。

#### ■主要事業

徳山下松港や水島港における国際バルク戦略港湾政策の取組みなどの物流関係事業をはじめ、港湾における脱炭素化の取組みとして、カーボンニュートラルポート(CNP)形成に向けた取組みを徳山下松港など各港で港湾管理者等と連携しながら実施しているほか、観光振興のためのクルーズ推進、みなとオアシスなど、様々な事業に取り組んでいる。

#### ■広島港国際海上コンテナターミナル整備事業

広島港出島地区では、近年の自動車部品等コンテナ貨物の需要増大やコンテナ船の大型化等に対応するため、岸壁や航路・泊地の整備等、国際海上コンテナターミナルの整備を行っている。地域のニーズが非常に強く、令和4年度から3年間という短期間で整備することを目標としている。

現在の岸壁では中国航路と韓国航路の大型コンテナ船が同時に係留出来ないなどの

問題があり、定時運行のコンテナ船が寄港を取りやめることにもなりかねない。地元の利用者に多大な迷惑がかかることにもなるため、一刻も早く整備を推進していきたい。

#### ■広島空港滑走路端安全区域(RESA)整備事業

RESAとは航空機がオーバーラン(走り越す)やアンダーシュート(手前で着陸)といった事故を起こした場合に、機体の損傷を軽減し、人命の安全を確保するため、着陸帯両端に設けられた緩衝区域のこと。

広島空港の西側にはRESA用地が40mしかなく、最低限90mの確保が必要。西側に50m延長する場合、高低差が大きく埋立量が多くなり、人工地盤の撤去等の経費がかさむため、東側に滑走路を60m移設することで、西側のRESA用地を確保することとし、令和3年度より工事を実施している。

#### ■水際・防災対策連絡会議の取組みについて

中国地方整備局が主体となって関係機関に呼び掛け、中国地方整備局管内港湾の保安対策や防災対応について情報共有や事前準備を行うための連絡会議を行っている。

災害対応としては、平成30年7月豪雨の際、幸い港湾自体への被害はほとんどなく、給水支援や救援物資の輸送などの支援に徹し、寸断された陸路を避けて整備局所属の船艇で海上輸送を行った。また、災害で発生した土砂についても、海路で大量に輸送し、道路の渋滞や負荷を避けることができた。この他、海底火山の噴火による軽石への対応を行った。

我々、港湾空港部は港を活かして、地域を元気にしていきたいと思っている。「港から地域を元気に。中国地方を元気に。」をモットーに、いろいろな施策を推進してまいりたいので、引続きのご理解・ご支援を賜りたい。

(担当:中村)